

視察・研修報告書

視察・研修先	第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌
日 時	令和7年8月27日（水） 13:00～16:50
場 所	札幌文化芸術劇場 hitaru （札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ内）
テーマ	～地方議会議員のなり手不足問題の解決について～
対応者 （講師）	◆基調講演・・・「主権を預かる誇りと責任」 元衆議院議員議長 伊吹 文明氏 ◆パネルディスカッション・・・「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」 ・コーディネーター 近畿大学法学部教授 辻 陽氏 ・東京大学教授 牧原 出氏 ・読売新聞東京本社政治次長 白石 洋一氏 ・山口県宇部市議会議員 山下 節子氏 ・北海道札幌市議会議員 長内 直也氏
概 要	
◆基調講演・・・「主権を預かる誇りと責任」 「地方自治」とは大きな権力があり、自分たちの地域やグループに対して責任を持ち運営していくものである。封建時代では大名という権力者や庄屋がおり、そこに年貢等を納める農民等がいて暮らしが成り立っていた。 明治維新後は大日本国憲法が定められ、主権は「天皇」であり、内閣総理大臣は選挙ではなく「天皇」が決めていた。また、「首長」や「議員」は内務省が決めていた。 第二次世界大戦後、米国が入り「新憲法」が作られ、日本の主権が「天皇」から「国民」に移り、選挙によって「知事」や「議員」が選ばれる様になり、「二代表制」が始まった。国会は、「国権の最高機関」であり、総理大臣は衆議院によって指名される「一元代表制」であり国会のみで決まってしまう。「二代表制」である地方議会は、「市民（有権者）」が選挙で決めるので、「一元代表制」と大きな違いがあり、直接有権者から選ばれる「首長」や「議員」の責任と期待は大きい。 議員には沢山の苦勞があり、テレビの中のようなチャホヤされているものではない。議員を辞めた後、議員年金もなく、退職金もない。在職中は、勤務時間の制限もなく、何の保証もないため、議員を辞めた後、生活保護を受給している人もおり、地域により「議員のなり手不足」も加速している。主権を守り、地域で住民福祉の向上を図るなら議員の生活の保障も約束し、老後の地方議員の保証を総務省等に訴えていくべきである。また、議員を辞めた後の生活の大変さをもっと住民に知ってもらうべきである。 しかし、国会議員による「裏金」等の違法な問題が出てくると、国会・地方の全ての議員の質が問われて「議員はお金のために悪いことをする」と思われてしまう。そのため普段から地域住民から尊敬されるような「振る舞い」、「行動」を行い、議員としての責任と使命をもっともらいたい。との内容の講演であった。 私も議員になり、10年以上経つが、議員を辞めた後の事など考えもしなかった。地域のためにできること、できないことをしっかり皆様に伝え、議員としての地域安全・	

安心と福祉の向上の責務を全うしていきたいと感じた。

◆パネルディスカッション・・・「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」 パート１・・・「地方議会のなり手不足問題」について

昨今、地方議会・議員に対する無関心や不信が広がり、地方議会議員選挙において投票率の低下が進み、「無投票」や「定員割れ」が顕著に増加している。また、多様な人材を確保するため、令和５年（２０２３年）の地方自治法の改正（第８９条）により、地方議会の役割及び議員の職務等の明確化がなされた。また、地方議会にかかる手続きのオンライン化も始まった。

前回、令和５年（２０２３年）の統一地方選挙において、読売新聞の記事検索データによると、「議員のなり手不足」についての内容が前回、令和元年（２０１９年）は４９本、令和５年（２０２３年）は１１２本と、前回の倍以上に記事のヒットであった。いかに、「議員のなり手不足」が深刻であるかがうかがえる。ではこの問題をクリアするためは・・・

●議員のなり手不足の理由として・・・

「立候補にお金がかかりすぎる」、「議員の仕事に魅力を感じない」、「落選したら職を失う危険」など、多くの意見が上位を占めていた。また、「議員の働き方（時間・休日）」は基準がなく、やろうと思えば３６５日、市民相談や視察や調査などの議員活動があり、際限がなくなってしまう。

「議員なのだから私生活の犠牲は当然」との意見もあると思うが、どこかでこの多忙を制限しないと「使命と責任感」だけでは、誰も議員になろうと思う人が出てこないかもしれない。

●議員のなり手不足問題に関する論点として・・・

「多様性をもっと取り入れ、女性、会社員などの誰でも立候補しやすい環境の整備」が必要である。そのために、議員活動を明確化し、議員の役割を広く住民に知ってもらおう。また、「議員の定数・報酬のあり方」についても、議員として生活をしていくなら家族の理解、当選後生活ができる報酬、議員退職後は、年金等による生活の保証も考えないといけない。

●議員のなり手不足問題の解決に向けて・・・

誰でも立候補しやすい環境づくりが必要である、そのために多様な人材が参画を促すため様々な角度から検討する必要がある・・・

- ・ 議会の開催を「休日開催・通年開催」など工夫し勤労者の参画の拡大を
- ・ 議会（議員）の仕事・活動・魅力の発信を活発に
- ・ ハラスメント防止による女性や障害等のある方の参画を容易に
- ・ 会議規則による「育児」や「介護」の取り扱いを明確に
- ・ 議員の生活保障として、議員報酬や議員年金・健康保険等の検討を
- ・ オンライン議会を可能に（育児・介護中・大規模災害・感染症の蔓延等）に対応できるようになど

所 感

現在、多くの自治体で「議員のなり手不足」が問題となっている。幸い、本市では、毎回の議員選挙では定数 20 議席に対して「25～26 名」の立候補者がおり、「議員のなり手不足」の状況ではない。

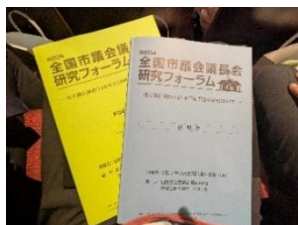
今回のフォーラムでの討議では、「議員のなり手不足」により「定員割れ」や「議員を親族が占めている」自治体も紹介されていた。

宇部市議会議長の報告では、議員をしっかりとした「職業」として、それに見合った処遇を訴え、議員退任後の生活保障のために「報酬の増額」や「議員年金」の再開を強く要望していた。

しかし、これは「議員のなり手側」からの要望であり、住民にとっては不要な税金が議会に使われる不満が出てくることも考えられる。そのために「議員としての資質向上」が必要である。日々、住民のために研鑽し、問題意識を持ち「地域の発展のために汗をかいているのか？」を住民に認めてもらうための「努力」、「振る舞い」や「行動する姿」を議員全体が行動で示していかなければならない。

議員としての「資質の向上」のため、議員による「議会活動の活性化と発信」や「主権者教育の推進」が必要である。

また、この主権者教育の一環として、札幌市議会では、将来の地方自治を担う子ども達を夏休みの期間に議場に招き、議会の仕組みや役割等を問題形式で出題し、子ども達に答えてもらう「市議会子ども教室」なども実施している。本市でも「中学生模擬議会」や高校生を議場に招いての「議会報告会」を行っているが、この小さな活動が「議会を知る」きっかけになり、議会への関心・議員の仕事への興味となり、「議員のなり手不足」の一助となるので、継続していくことが大切であると感じた。



一作成者 河村 康之一

視察・研修報告書

視察・研修先	第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌
日 時	令和7年8月28日（木） 12:05～15:00
場 所	札幌市図書・情報館 （札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ内） 札幌市えほん図書館 （札幌市白石区南郷通1丁目南8-1 白石区複合庁舎6階）
テーマ	ビジネスパーソンを支援する図書館、乳幼児を対象としたえほん図書館の視察
対応者 （講師）	札幌市図書・情報館館長 安本 朋幸氏 札幌市えほん図書館館長 浜部 公孝氏
概 要	
1 札幌市図書・情報館（ビジネスパーソン支援） 「はたらくをらくにする」をコンセプトに掲げ、ビジネスパーソンを支援する図書館である。課題解決に役立つ図書や情報が手に入るようにしている。 （1）仕事や暮らしに関する図書、情報提供 ・WORK（仕事）：マーケット情報、起業、資格取得など ・LIFE（生活）：医療・健康、法律など ・ART（芸術）：舞台芸術・現代アートなど （2）相談窓口開設やセミナー・イベントの開催 関係機関と連携して開催している。 【2025年9月開催の相談窓口、セミナー・イベント】 ○札幌市図書・情報館×児童相談所連携セミナー 「あたらしい家族のカタチ～里親制度ができること」 セミナー後に里親制度に関する相談会を開催している。 ○起業・経営課題・事業資金などの相談窓口 ・よろず支援拠点 - 各分野の専門コーディネーターが経営課題の解決をお手伝いしている。 ・日本政策金融公庫 - 日本政策金融公庫担当者が融資をはじめ、創業計画、事業計画や事業承継などに対応している。 ○遺言・相続、不動産や法人の登記など法に関する相談窓口 札幌青年司法書士会の司法書士が対応している。	

○セミナー「持続可能なソーシャルビジネス～パラスポーツクラブの活動・運営を通じて～」

- ・日時：9月20日（土）13：00～15：00
- ・場所：札幌市図書・情報館1階サロン 定員 50 名
- ・講師：齊藤雄大氏



○スペシャルトーク 池田亮氏（ゆうめい代表）×山田由梨氏（贅沢貧乏主宰）

- ・日時：9月23日（火）13：00～14：00
- ・場所：札幌市図書・情報館1階サロン 定員 60 名



2 札幌市えほん図書館（乳幼児対象）

（1）えほん図書館の蔵書

- ・蔵書数＝未就学児向けの絵本を中心に約 28,600 冊
- ・絵本、大型絵本、紙芝居、大型紙芝居
- ・バリアフリー絵本（布の絵本、点字絵本、手話絵本、拡大文字絵本、さわる絵本など）
- ・外国語の絵本（英語、中国語、ドイツ語、韓国語、ロシア語、その他の言語）
- ・絵本に関わる雑誌、絵本に関わる一般書（絵本の資料、子育てに関するもの）

（2）えほん図書館の特色

- ・声を出して本を読むことができる。

- ・ 人気のある絵本や定番の絵本は複数そろえている。
- ・ 絵本の表紙が見えるように並べて選びやすくしている。
- ・ ボランティアや地元の絵本作家等と連携している。
- ・ 図書の修理サポーターを育成している。
- ・ 地元の絵本作家やイラストレーター等によるイベントを企画している。
- ・ 自動貸出機と自動返却機で利用者自身が手続きをすることができる。

(3) 各イベントの開催

- ・ 図書館デビュー
- ・ おいしい絵本ライブ
- ・ 年齢別おはなし会



所 感

札幌市図書・情報館は、小説などの文学書は置いていないが、「はたらくをらくにする」というテーマで、図書館に来られた人の課題を解決するために、いろんな角度から手を差し伸べている。

最新の書籍や専門誌を含む新聞、雑誌、データベースなど、仕事や暮らしに役立つ最新の情報を得ることができる。また、ビジネスやふだんの暮らしに役立つセミナー、知的好奇心をくすぐるようなイベントを開催している。また、現代アート、舞台芸術や演劇、デザインなどの専門書も取り揃えている。

えほん図書館は乳幼児対象で、「声を出していい図書館」や「五感を刺激し、安全に遊べる布の絵本」など、乳幼児に特化した素晴らしい場所である。

本市においても、「れいわこども情報センター」などで、布の絵本、さわる絵本及び点字絵本を常備してもらいたい。

－作成者 神田 徳良－